



「風のくら」は竹林に囲まれた緑あふれる環境に建っている。外壁の仕上げには、風合いのあるスペイン産珪を使用



打ち合わせスペースの飾り棚や無垢のテーブルは、ハウズランド社のオリジナル。飾り棚には厚みのある杉を使い、存在感を出している

和と洋が見事に融合したハウズランドスタイル
 筑紫野市の山間に築1500年を超える古民家をリノベーションした住宅がある。「ハウズランド社」が手がけた民家再生モデル住宅「風のくら」だ。ハウズランド社といえは、日本の古民家を「和」の概念にとらわれず、海外の素材なども積極的に取り入れて再生している。

注目のハウズビルダー「風のくら」はそれを象徴する住宅の一つとして、和と洋の要素を共存させたモデルでオシャレな造りになっている。そうも聞いている。「風のくら」に踏み入れた時の衝撃は想像を超えるものがあつた。正統派和風づくりの居間に、洋の要素であるアンティークガラスを入れたオリジナルの建具やステンドグラスの窓が、違和感なく融合しているのだ。それは家づくりの楽しさ、奥深さに気づかせてくれる体験でもあるためこの場所に来「ハウズランド社」のファンになる人は数知れない。そんな経緯もあつて、和風の古民家風と西洋アンティークがミックスしたハウズランドスタイルは広がりを見せている。



エントランスホールでもある土間からリビングへ。和と洋が自然と溶け込み、寛がさまで感じる空間だ

古民家再生モデル住宅

MODEL HOUSE

風のくら

Hausland

日本の伝統美と現代の技術が融合
 スペイン漆喰と無垢の木の家づくり

風の音、木の香り、きれいな空気。そんな森の中にいるような、ナチュラルな家で暮らしたい。そう願う人が必ずといっていいほど候補にあげるのが、ハウズランドだ。早速、自然素材が体感できるといふ、モデル住宅へ行ってみたい。

コミュニケーションを重視したオープンタイプのキッチン。造作のカウンターはスライド式で、奥行きもたっぷり